

平成 28 年 6 月  
公衆衛生学研究科 自己点検・評価委員会

本研究科の自己点検・評価を平成 27 年度中長期計画のアクション・プランに基づき、実施計画を「活動実績と評価」「問題点と改善方策」との項目に分けて行った。

## 1. 教育の質の向上

### (教育の質保証)

- ①各種講義、実習、課題研究を問題解決型アプローチに則り、コンピテンシーを高める教育を実践するよう、教育プログラムの検証と改善を行っています。その一環として平成 27 年度からはランチョンセミナーを開始し自己主導型学習の拡充を図る、課題研究指導にグループ指導性を取り入れるなどの取り組みを行っております。今後も、科学的・学術的研究と実践教育との融合を図ったカリキュラムの改善を行っていきます。

### 活動実績と評価

- ・調査研究法に関する入門的なミニレクチャーを全 11 回実施した(期間:2015.4.8~5.27、水・木 昼休み)。
- ・課題研究の指導方法としてグループ指導体制を取り入れた。教員 3~4 名と学生 5~8 名からなる小グループ内において、7 月、10 月、12 月の全体報告会の前に、それぞれ 1~2 回ずつグループ指導を行った。
- ・全 44 科目中、24 科目(55%)で小グループでの演習・実習を行った。
- ・全 44 科目中、34 科目(77%)で事前学習・準備を前提とした発表・討論を取り入れた授業を行った。

### 問題点と改善方策

- ・調査研究法入門ミニレクチャーの内容への学生による評価は高かった一方、ランチョンセミナーという形式についてあわただしく感じたという感想があった。改善として、平成 28 年度は、4/6, 7, 8 の 1 限~4 限に行う集中講義の形態で、単位認定をとまなう科目として開講することとした。
- ・小グループ指導体制により、よりきめ細やかな指導が可能になった一方、学生、教員の双方から、発表等の回数が多すぎ負担が大きいという意見があげられた。改善として、平成 28 年度は、10 月の全体報告会での発表は必要に応じて求めることとした。

### (FD (ファカルティ・ディベロップメント) の推進)

- ②平成 28 年 9 月には米国ハーバード大を始め世界各地から講演者を招き、新しい医療における教育システム等を含めたシンポジウムを教員の FD として開催し、次世代の担い手を発掘・育成するよう、推進していきます。

### 活動実績と評価

平成 27 年は、教育方法の改善に関するテーマについて、各回 1 時間で全 20 回の FD を行った。

### 問題点と改善方策

学外・研究課外の識者による教育的な講演等が必要である。改善として、平成 28 年に開催される帝京・ハーバードシンポジウムを FD として開催することとした。

## 2. 教育研究環境の整備

### (学生支援体制の整備)

- ③大学院公衆衛生学研究科では設置当初からひとりひとりの学生に対し、アカデミックアドバイザーを配置し、毎月担当学生と面談し、学習、学校生活、進路支援等を行うとともに、毎月1回行う学生部会において全教員で学生の情報を共有し、問題を抱えた学生の早期発見に努め、指導の充実をはかっています。

#### 活動実績と評価

これまで通り、各学生には全在学期間にわたり、課題研究指導教員とアカデミックアドバイザーの2人の担当教員が配置された。毎月1回の学生部会において全学生の状況を教員間で情報共有する際に、問題を抱えた学生に関して対応を議論した。精神科の医師の教員のコメントを参考に、事例ごとに適切な方法を検討して対処した。

#### 問題点と改善方策

精神的な問題を抱えた学生に対する教育についてまだ経験が少ないことが問題である。教員が責任を持つ範囲、学生への対応等について、今後も経験と議論を重ねていく。

## 3. 大学運営組織の再構築

### (自己点検・評価活動の推進)

- ④大学院公衆衛生学研究科では独自のホームページを作成し、担当教員を配置し、より専門性に応じた情報の公表に努めています。

#### 活動実績と評価

広報の担当教員を配置し、HPでの情報公表を行った。さらに、2016年3月23日、帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻専門職学位課程(MPH)は、公益財団法人大学基準協会による認証評価の結果、公衆衛生系専門職大学院基準に適合していると認定された(認定期間:2016年4月~2021年3月)。結果をホームページに掲載した。

#### 問題点と改善方策

毎年行う自己点検・評価活動の結果の公開を行うことが課題である。平成28年度は、範囲と方法を検討し、平成27年度自己点検・評価結果を公開することとした。

- ⑤公衆衛生学研究科(専門職学位課程)では実務経験を有するものを対象としたコースの設定を行い、より広い人材の確保に努めています。さらに平成27年度からは産業保健高度専門職養成の大学院プログラムを開始し社会人への生涯学習としての学習機会の提供を開始していきます。

#### 活動実績と評価

- ・平成27年のMPH入学者15名全員が社会人である。
- ・平成27年のDrPH入学者6名全員が社会人である。
- ・平成27年の産業保健高度専門職養成の大学院プログラムの入学者8名全員が社会人である。

#### 問題点と改善方策

専門職大学院設立時から社会人入学を主体としており、今後は学部卒後の進学も受け入れていく。

## 【その他】

### 活動実績

研究費公募情報収集に担当の教員を配置し、平成 27 年度は 5 件（労災疾病臨床研究事業費、研究助成金獲得カレンダー、日本医療研究開発機構公募、厚労科研費、学振研究拠点形成事業費）の案内を行った。

### 問題点と改善方策

今後も引き続き情報収集と、担当教員による申請書作成に際しての助言を行っていく。

### 活動実績

- ・求人情報等、進路にかかわるトピック限定のメーリングリストを運用し、平成 27 年度の投稿件数は 20 件であった。
- ・平成 27 年は研究科開催のキャリアセミナーを 4 回行い、国連機関、米国保健機関職員、民間 NGO 職員、卒業生が講師を務めた。
- ・入学直後に各学生の入学前の職務経験、修了後のキャリアプランについてアカデミックアドバイザーが把握することとした。可能な限り教員会議で共有し、適切な助力ができるように努めた。

### 問題点と改善方策

研究科・教員による就職先の紹介、推薦等の事例を増やすことが課題である。インターンシップの拡充等を図るとともに、国連機関、官公庁、企業、NGO の職員等によるキャリアセミナー開催に引き続き注力する。

### 活動実績

- ・公衆衛生学独自のホームページを運営し、平成 27 年には、教員、学生、修了生の活躍、研究科の行事を伝える「ニュース」を 70 回以上発信した。
- ・帝京大学公衆衛生学研究科（TSPH）ニュースレターを 2 号発行し、ホームページに掲載した。
- ・帝京大学 S P H が大切にしている 3 つの教育（基本 5 分野・問題解決アプローチ・コンピテンシー）を説明し、「帝京大学 SPH は公衆衛生の実務の専門家育成を目指し、この 3 つの教育を大切にしながら大学院生の指導にあたっています。」というメッセージをホームページに掲載した。

### 問題点と改善方策

・修了生の就職実績の向上を教育の成果の一つとしてアピールしていくことが今後の課題である。平成 28 年度は、在校生の人物像を魅力的に伝える発信を行っていく。

### 活動実績

- ・平成 27 年度は、9/26 に同窓会を開催した。
- ・帝京 SPH 同窓会のメーリングリストを運営し、卒後のネットワークとしている。

### 問題点と改善方策

・今後の同窓会が、仕事、学び、研究に役立つ交流の場として機能するよう継続してネットワーク活動を続けていく。